

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターの
令和5年度業務実績評価における評価指標等（案）

項目 1 血管病医療

1 中期目標及び中期計画

※赤字は令和4年度（第三期）からの変更点

視点	中 期 目 標	中 期 計 画
①	○ 血管病医療においては複数の診療科が密接に関連するため、診療科間の連携強化を図り、患者を積極的に受け入れる。	○ 各診療科で連携を強化し、 フレイルに配慮した 検査・治療の提供を行う。 ○ 急性大動脈スーパーネットワーク、 東京都CCUネットワーク、東京都脳卒中救急搬送体制からの脳・心血管疾患患者の積極的な受入れを行う。 ○ 治療後の早期回復や血管病の 管理・予防 に向け、早期リハビリテーションの実施や ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の実施など、心疾患管理の充実を図る。 ○ 病院と研究所が一体であるメリットを生かし、高齢者の血管病に関する研究成果について、臨床への応用の更なる推進を図る。
②	○ これまでに 強化した医療提供体制の下、引き続き高齢者の多様な症例に適切に対応し、高度かつ低侵襲な医療を提供する。	○ 重症心不全患者などの血管病患者に対し、経カテーテル的大動脈弁治療をはじめとする先進的血管病医療に取り組むとともに、その医療体制を更に充実・強化し、個々の患者に適した高度かつ低侵襲な医療を提供する。

2 評価指標等

評価の視点	及び	想定する取組	※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組	参考値	※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点①】 診療科間の連携強化を図り、患者を積極的に受け入れているか		(1) 診療科間連携による患者の受入れ		・ 血管病の対象となる入院患者の年齢別の割合		
		○急性心血管疾患患者の受入れに係る取組状況				
		◆東京都 CCU ネットワークや急性大動脈スーパーネットワークからの積極的な患者受入れ		・ 急性大動脈スーパーネットワーク患者受入数 ・ 東京都 CCU ネットワーク患者受入数		
		◆ICU 及び CCU の運用		・ ICU/CCU 稼働率 ・ ICU/CCU 患者受入実数 ・ ICU/CCU 平均在室日数		
		○超急性期脳卒中患者の受入れに係る取組状況				
		◆t-PA 治療の実施		・ t-PA 治療実施件数		
		◆SCU の運用		・ SCU 稼働率 ・ SCU 患者受入実数 ・ SCU 平均在室日数		
		◆フレイルに配慮した検査・治療の提供				
		(2) 治療後の早期回復と血管病予防				
		○治療後の早期回復に向けた取組状況				
【視点②】 高齢者の多様な症例に適切に対応し、高度かつ低侵襲な医療を提供しているか		◆早期リハビリテーションの実施		・ 早期リハビリテーション実施単位数（脳血管・心大血管）		
		◆入院期間の短縮				
		○血管病予防に向けた取組状況				
		◆専門外来における診療の推進				
		(3) 高度かつ低侵襲な医療の提供				
		○高度かつ低侵襲な診療の実績				
		◆ハイブリッド手術室や血管造影室を活用した高度かつ低侵襲な治療の実施		・ 高度かつ低侵襲な治療の実施件数		詳細は別紙参照
		◆先進的治療の実施				
		○高度かつ多様な治療の提供体制の整備				
		◆設備や施設基準等の維持・整備				

項目2 高齢者がん医療

1 中期目標及び中期計画

※赤字は令和4年度（第三期）からの変更点

視点	中 期 目 標	中 期 計 画
①	○ 高齢者の生活の質の維持・向上に配慮し、高度かつ低侵襲な医療を提供する。	○ 高齢化に伴い罹患率・死亡率が高まるがんについて、 高齢者の特性に配慮しながら がんの早期発見・早期治療を実施すること で、高度かつ低侵襲な医療を提供する。
②	○ 集学的ながん治療の提供体制を確保し、 最適な 治療を提供するとともに、がん診療に関する相談体制の強化、緩和ケアの充実を図る。	○ 第三期に導入した放射線治療機器も有効に活用すること等により、 集学的治療を提供する。 ○ 患者や家族が安心して療養生活を送るために、がん相談支援センター をはじめとして各部門が連携し、入退院支援を実施するとともに、近隣の医療機関等との連携を行うなど、 地域におけるがん医療の充実を図る。 ○ がんをはじめとして、 患者やその家族の身体的、精神的苦痛の緩和を図るため、治療の初期段階から 各診療科においてACP、緩和ケア診療・家族ケアを実施する。

2 評価指標等

評価の視点 及び	想定する取組	※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組	参考値 ※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点①】 高齢者の生活の質の維持・向上に配慮し、高度かつ低侵襲な医療が提供されているか	(1) 高度かつ低侵襲な医療の提供		・ 高齢者ががんの対象となる入院患者の年齢別の割合	
	○高度かつ低侵襲な診療の実績			
	◆高度な医療機器を活用したがんの早期発見と早期治療			
	◆低侵襲な鑑別診断やがん治療		・ 正確かつ低侵襲な鑑別診断を行うための各種検査の実施件数 ・ 低侵襲な各種治療の実施件数 ・ 悪性腫瘍に対する保険収載 PET 検査の実施件数	詳細は別紙参照
	○集学的がん治療の提供			
【視点②】 がん診療に関する相談体制の強化や、緩和ケアの充実が図られているか	◆化学療法や放射線治療の充実		・ 外来化学療法実施件数（診療報酬上の加算請求件数） ・ 画像誘導放射線治療（IGRT）件数 ・ 定位放射線治療件数 ・ 造血幹細胞移植療法件数 ・ 強度変調放射線治療（IMRT）件数	
	(2) がんの相談体制や緩和ケア治療の提供体制			
	○がんの相談体制の強化に向けた取組状況			
	◆がん相談支援センターの運営		・ がん相談支援センターにおける相談実績（件数、内訳）	
	○緩和ケアの充実に向けた取組状況			
	◆多職種によるチームケアの充実			
	◆緩和ケア診療の実施		・ 医師等に対する緩和ケア研修会の開催実績（回数、参加者数）	
	◆家族ケアの実施			

項目3 認知症医療

1 中期目標及び中期計画

※赤字は令和4年度（第三期）からの変更点

視点	中期目標	中期計画
①	○ 病院と研究所との連携による診断法・治療法の開発などにより、認知症医療の進歩に貢献する。	○ 認知症の発症機序の解明、早期診断法・発症予測や記憶障害の改善治療の開発等を行うとともに、MRI、SPECT、PET等の画像を活用した認知症の早期診断・早期発見に努める。 ○ 認知症に関する研究や治験の受託を推進するとともに、認知リハビリテーションにおける介入方法の更なる充実・普及に取り組むなど、認知症に係る治療の向上を図る。
②	○ 区西北部二次保健医療圏における地域拠点型認知症疾患医療センターとして、高度な専門性や医療体制を生かし、地域における認知症医療の体制強化を推進する。	○ 東京都認知症疾患医療センターとして、 当事者等の意見を尊重しながら 、多職種チームが専門性を生かした受療相談や、地域連携機関の要請を受けて認知症高齢者を訪問するアウトリーチ活動を実施するなど、認知症医療・福祉への貢献に努める。 ○ 地域の 医師や看護師への対応力向上研修や、医療・介護に関わる関係者から構成される連携協議会の開催等を通じて、認知症医療に係る人材育成や地域連携の推進に努める。
③	○ 身体疾患で入院する認知症症状を有する患者に対し、院内の連携体制を確保することにより、認知症症状を悪化させず、適切な医療を提供する。	○ 各部門が連携し 、認知症症状を有する 患者 のQOL（生活の質）向上を図るための認知症ケアを推進する。 ○ 入院患者に対してDASC-21（認知症アセスメントシート）に基づく評価を行うなど、認知症に対する早期ケアを推進する。

2 評価指標等

評価の視点 及び	想定する取組 ※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組	参考値 ※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点①】 病院と研究所との連携による診断法・治療法の開発等により、認知症医療の進歩に貢献しているか	(1) 認知症診断の精度向上		
	○ 病院・研究所とが一体であるメリットを活かした取組状況		
	◆ MRI や SPECT、PET の画像等を活用した診断精度の向上	・ MRI、SPECT、PET 検査の件数 ・ 鑑別診断件数	PET は研究目的で実施した件数である
	◆ 認知リハビリテーション等を通じた治療法開発への貢献		
【視点②】 地域拠点型認知症疾患医療センターとして、地域における認知症医療の体制強化を推進しているか	○ 早期診断や診断精度の向上結果等の普及還元に向けた取組 →主に項目16「認知症との共生・予防の取組」で評価		
	(2) 地域における認知症医療の体制強化		
	○ 東京都認知症疾患医療センターにおける取組状況		
	◆ 多職種チームによる受療相談	・ 専門医療相談件数	
	◆ 認知症高齢者に対するアウトリーチ	・ 訪問支援延件数	
	○ 認知症に対する地域の人材育成や地域連携の推進に向けた取組状況		
【視点③】 院内の連携体制により、認知症症状を悪化させず、適切な医療を提供しているか	◆ 地域の医療従事者等に対する対応力向上研修の実施	・ 地域における医師等への研修会実施件数	
	◆ 医療・介護の関係者から構成される連携協議会の開催		
	○ 東京都認知症支援推進センターにおける取組状況 →主に項目16「認知症との共生・予防の取組」で評価		
	(3) 適切な医療の提供		
	○ もの忘れ外来・ 高齢者いきいき外来 における専門的医療の取組状況 →主に項目5「高齢者の特性に配慮した医療」で評価	・ 受診患者の年齢別の割合	
	○ 認知症ケアの取組状況		
	◆ 多職種連携による認知症ケアの推進		
	◆ DASC-21 などを活用した早期ケアの推進		
	○ 患者・家族への支援の実施状況	・ 当事者の会・家族交流会等の開催実績（回数・参加者数）	

項目4 高齢者糖尿病医療 【新規】

1 中期目標及び中期計画

※赤字は令和4年度（第三期）からの変更点

視点	中 期 目 標	中 期 計 画
①	○ 法人の知見を生かした専門医療を提供することで、合併症のほか、フレイルや認知症の予防を推進する。	○ 高齢者糖尿病患者に対し、医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士等の多職種連携により、適切な血糖コントロールだけでなく、糖尿病性腎症等の合併症予防を行う。また、フレイル外来、フットケア外来などの専門外来と各診療科の連携等により、併存病態であるフレイル・認知症の予防に併せて取り組む。
②	○ 診療科間の連携をはじめ、認定看護師や栄養士、薬剤師等とのチーム医療を強化する。	
③	○ 研究部門との連携を推進し、研究成果を臨床の現場に生かす。	○ フレイル外来の追跡データや研究所の統合疫学データベース等を活用し、病院・研究部門間の連携により、筋肉の質低下などを原因とするサルコペニアがフレイルに及ぼす影響を研究するなど、フレイルの予防・治療に向けた取組を推進する。
④	○ 地域の医療機関や訪問看護師等との連携を推進するとともに、法人の知見を普及することにより、地域の医療機関等の対応力の向上を図る。	○ 「いたばし糖尿病多職種ネットワーク」や「東京都区西北部糖尿病医療連携推進検討会」などの場を活用し、行政や地域の医療・福祉関係者等との連携を推進するとともに、センターの有する高齢者糖尿病に関する知見・ノウハウを提供することで、地域の高齢者糖尿病医療提供体制を強化する。 ○ 地域のフレイルサポート医等による高齢者糖尿病患者のトリアージを踏まえ、専門治療が必要な重症患者や合併症患者を早期発見し、センターで受け入れるとともに、回復後の患者は地域での診療を継続することで、病病連携・病診連携を推進し、高齢者糖尿病患者に対して適切な医療を提供する。

2 評価指標等

評価の視点 及び 想定する取組	※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組	参考値 ※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点①】 法人の知見を生かした専門医療を提供し、合併症のほか、フレイルや認知症の予防を推進しているか	(1) 法人の知見を活かした専門医療の提供		
	○専門医療の取組状況		
	◆糖尿病看護外来等における専門医療の提供状況	・糖尿病看護外来年間延べ患者数 ・isCGM 新規導入件数（または使用者数） ・rtCGM 新規導入件数（または使用者数） ・インスリンポンプ新規導入件数（または使用者数）	
	◆糖尿病教室等の実施	・糖尿病教室開催回数・参加人数 ・外来糖尿病患者むけノルディックウォークの会（回数、参加者数）	
	○合併症やフレイル、認知症予防の取組状況		
【視点②】 診療科間の連携をはじめ、認定看護師や栄養士、薬剤師等とのチーム医療の強化に向けた取組を実施しているか	◆専門外来と各診療科の連携による合併症防止の取組状況	・低血糖の入院症例数	
	(2) チーム医療の強化		
	○チーム医療の強化に向けた取組状況		
【視点③】 研究部門との連携を推進し、研究成果を臨床の現場に生かしているか	◆多職種カンファレンス、糖尿病ケアチーム医療勉強会等の実施		
	◆栄養指導を中心とした栄養ケアの推進と栄養士の資質向上		
	(3) 研究部門との連携		
	○病院・研究所が一体であるメリットを活かした取組状況		
	◆糖尿病に関する研究の推進		
	○研究成果の臨床現場での活用		

評価の視点 及び 想定する取組 ※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組		参考値 ※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点④】 地域の医療機関や訪問看護師等との連携を推進し、地域の医療機関等の対応力の向上を図っているか	(4) 地域における高齢者糖尿病対応力の向上		
	○地域の医療機関等との連携		
	◆行政や医師会、歯科医師会等と連携した地域における糖尿病重症化予防やフレイル予防の実施	・「糖尿病・代謝・内分泌内科」の逆紹介件数（入院・外来患者）	
	○地域における対応力向上に向けた取組状況		
	◆いたばし糖尿病多職種ネットワークの会の開催	・いたばし糖尿病多職種ネットワークの会（実施回数、地域の医療従事者参加者数）	
	◆センター内研修への地域看護職の参加推進		

項目5 高齢者の特性に配慮した医療 【拡充】

1 中期目標及び中期計画

※赤字は令和4年度（第三期）からの変更点

視点	中 期 目 標	中 期 計 画
①	○ 多様な診療科を擁する法人の医療体制を生かし、複数疾患を抱える患者や重症度の高い患者を積極的に受け入れ、適切な急性期医療を提供する。	○ 適切な急性期医療の提供のため、東京都CCUネットワークや急性大動脈スーパーネットワークなどへの参画を通じて、重症度の高い患者の積極的な受入に努めるとともに、ICU（特定集中治療ユニット）、CCU（冠動脈治療ユニット）、SCU（脳卒中治療ユニット）を効率的かつ効果的に運用する。
②	○ 重点医療以外の診療分野においても、高齢者特有の疾患に対応した専門医療を提供するとともに、患者一人ひとりの症状に応じた全人的・包括的医療を効果的に提供することで、生活機能の維持・フレイル状態からの回復を支援する。	○ サルコペニア、フレイルなどに代表される高齢者特有の臨床症状に対応するため、多職種協働による医療の提供や療養支援等を積極的に行う。また、研究所と連携し、手術症例におけるフレイル評価方法の確立や、フレイル予防、要介護回避につながる臨床研究を推進する。 ○ 骨粗鬆症の診断・治療及び骨折患者に対する治療、転倒骨折予防を積極的に行うなど、フレイルの原因となる老年症候群に対して適切な医療を提供する。 ○ 退院後のQOLの確保に向け、多職種で協働し、CGAやフレイル評価等を用いた検査により、入院時から退院を視野に入れた治療の提供と適切な退院支援を実施するとともに、地域の医療機関等との連携を強化する。
③	○ 地域の医療機関等との連携を推進するとともに、フレイルの視点をより一層重視した新たな「高齢者医療モデル」を普及することにより、地域の保健医療・福祉関係者のフレイルに関する対応力の向上を図る。	○ これまでの診療実績などから得られたエビデンスや培った知見を生かすとともに、フレイル・認知機能低下に係る健診の実施なども踏まえ、フレイルの視点をより一層重視した「予防し、治し支える医療」を新たな「高齢者医療モデル」として確立し、広く普及を図る。

2 評価指標等

評価の視点 及び 想定する取組		※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組	参考値 ※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点①】 複数疾患や重症患者を受け入れ、適切な急性期医療を提供しているか	(1) 適切な急性期医療の提供	○複数疾患、重症患者の受入に係る取組状況 ◆東京都 CCUNW や急性大動脈 SNW からの積極的な患者受入れ ◆ICU、CCU、SCU の効率的・効果的運用		
	(2) 高齢者に特有な疾患に対応した専門医療の提供	○サルコペニア、フレイルなど高齢者に特有な疾患に対応した専門医療の提供 ◆フレイル、ロコモ等の専門外来の充実 ◆加齢に伴う関節疾患・脊椎疾患治療の積極的な実施 ○薬剤管理やポリファーマシーへの取組状況	・各専門外来の患者数 ・薬剤管理指導業務算定件数	
	(3) 全人的・包括的医療の提供	○生活機能の維持・フレイル状態からの回復に係る取組状況 ◆チーム医療の推進 ◆外来・入院におけるフレイル評価の積極的な実施 ◆早期介入による栄養管理の実施	・平均在院日、病床利用率 ・栄養介入件数	
【視点③】 地域の医療機関等との連携を推進するとともに、フレイルの視点をより一層重視した新たな「高齢者医療モデル」を普及することにより、地域の保健医療・福祉関係者のフレイルに関する対応力の向上を図っているか。	(4) 地域の医療機関等との連携による適切な入退院支援の実施	○入院時から退院を視野に入れた治療に係る取組状況 ◆入院時における CGA の実施 ○適切な退院支援の取組状況 ◆退院後を見据えたリハビリテーションや介護指導などの実施 ◆退院時の適切なフレイル評価や高齢者総合的機能評価（CGA）に基づいた退院前カンファレンスの実施 ◆地域医療機関との情報共有	・入退院支援加算 1 算定件数 ・早期リハビリテーション実施件数 ・在宅復帰率	

評価の視点 及び 想定する取組		※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組	参考値 ※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点③】 地域の医療機関等との連携を推進するとともに、フレイルの視点をより一層重視した新たな「高齢者医療モデル」を普及することにより、地域の保健医療・福祉関係者のフレイルに関する対応力の向上を図っているか。	(5) 新たな高齢者医療モデルの確立			
	○ 新たな 高齢者医療モデルの確立			
	○ 新たな 高齢者医療モデルの普及に向けた取組状況			
	◆ 学会発表や医療従事者向けの研修等を通して普及・還元		・ 医療従事者向け講演会実施件数	

項目6 救急医療

1 中期目標及び中期計画

※赤字は令和4年度（第三期）からの変更点

視点	中 期 目 標	中 期 計 画
①	○ いつでも、誰でも、その症状に応じた適切な医療を受けられる救急医療の実現に貢献するため 、地域救急医療センター及び二次救急医療機関としての役割を堅持し、複数疾患を抱える患者や重症度の高い患者の積極的な受入れに取り組む。	○ 都民が安心できる救急医療体制を確保するため、地域救急医療センター及び二次救急医療機関として救急患者の積極的かつ迅速な受入れに努めるとともに、 救急患者の受入れに従事する医療従事者等の育成を図る。 ○ 救急診療部を中心に、救急患者の対応についての検証、問題点の把握・改善を行い、「断らない救急」の 実現と継続 に取り組む。

2 評価指標等

評価の視点 及び	想定する取組 ※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組	参考値 ※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点①】 地域救急医療センター及び二次救急医療機関としての役割を堅持し、複数疾患を抱える患者や重症度の高い患者の積極的な受入れに取り組んでいるか	(1) 都民が安心できる救急医療体制の確保	・ 救急からの入院患者の年齢別の割合	
	○ 「断らない救急」の推進		
	◆ 救急患者対応についての検証や、問題点の把握・改善		
	◆ 地域の関係機関との連携による早期退院の促進や救急患者の迅速な受入れ		
	○ 救急医療に関わる医師や看護師などの教育・指導に係る取組状況	・ 症例カンファレンスや学習会の開催件数	
	◆ 集中治療専門医研修施設として若手医師の育成を推進		
	(2) 救急患者の積極的な受入れ		
	○ 救急患者の受入実績	・ 東京ルール搬送患者受入数及び受入率	受入数÷依頼数 ※救急外来から用紙を集計
		・ 救急患者受入数	
		・ 来院手段の内訳（救急車、その他）	
		・ 搬送後の入院率	救急隊受入入院数÷救急隊受入総数
		・ 救急患者断り率	断り数（救急隊・医療機関・家族本人等）÷救急総依頼数（救急隊・医療機関・家族本人等）

項目 7 地域連携の推進

1 中期目標及び中期計画

※赤字は令和4年度（第三期）からの変更点

視点	中 期 目 標	中 期 計 画
①	○ 患者の状況や治療法等の情報を地域の医療機関と共有し、疾病の早期発見・早期治療を目指す。	○ ICT等も活用し、連携医療機関や連携医との関係強化、高額医療機器等の共同利用の促進、公開CPC（臨床病理検討会）や研修会の開催等を通じて、疾病の早期発見・早期治療に向けた地域連携の推進を図る。また、在宅医療担当医と連携し、画面共有等により、在宅での症状や生活状況について把握するなど、新たな診療の在り方について検討する。
②	○ 退院後も質の高いケアを受けられるよう、地域の医療機関や介護事業者、関係機関と連携し、適切な入退院支援を行うなど、在宅療養を支える地域の仕組みづくりに貢献する。	○ 在宅療養支援の推進に向けて、地域包括ケア病棟の積極的活用を図るとともに、地域の訪問看護ステーションと連携した訪問指導、地域と共同での勉強会等の実施により、地域の医療・介護施設等との連携強化や積極的支援を行う。
③	○ 地域の介護施設や関係機関と連携し、各施設の入所者に対して適切な医療が提供されるよう支援する。	

2 評価指標等

評価の視点 及び 想定する取組	※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組	参考値 ※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点①】 患者の状況や治療法等の情報を地域の医療機関と共有し、疾病の早期発見・治療を目指しているか	（１）地域における疾病の早期発見・早期治療 ○地域の医療機関との連携強化に向けた取組状況 ◆地域医療支援病院の指定を目指した取組の実施 ◆地域医療連携システム（C@RNA システム）の利用促進 ◆情報共有の強化 ◆高額医療機器等の共同利用の促進 ◆公開 CPC や研修会の開催 ◆紹介患者受入れの強化と逆紹介の推進	 ・連携医療機関数 ・高額医療機器の共同利用件数 ・各診療科セミナー・研修会及び公開 CPC 等の開催数 ・紹介率、逆紹介率 ・紹介患者数	
【視点②】 地域の医療機関や介護事業者、関係機関と連携し、適切な入退院支援を行うなど、在宅療養を支える地域の仕組みづくりに貢献しているか 【視点③】 地域の介護施設や関係機関と連携し、入所者に対して適切な医療が提供されるよう支援しているか	（２）退院患者の在宅療養を支える取組 ○地域の関係機関との連携強化 ◆地域包括ケア病棟の活用や訪問看護ステーションと連携した訪問指導 ◆地域と共同での勉強会や情報交換の実施 ◆在宅療養に関する相談・支援体制の充実 ○質の高い在宅療養に向けた適切な入退院支援 ◆在宅医療連携病床の利用 ◆退院後のリハビリ支援	 ・訪問看護ステーションとの連携による意見交換会や専門相談窓口等の実績（開催回数、相談件数） ・在宅医療連携病床における受入件数	

項目 8 災害・感染症等の緊急事態への対応 【新規】

1 中期目標及び中期計画

※赤字は令和4年度（第三期）からの変更点

視点	中 期 目 標	中 期 計 画
①	○ 風水害や地震などの災害による緊急事態においては、都の方針の下、都や地域の医療機関等と連携しながら、災害拠点病院としての体制を確保し、重症者等を率先して受け入れるなど、求められる災害医療を確実に提供する。	○ 都の方針を踏まえ、東京都災害拠点病院として求められる役割等に応じた災害医療を適切に提供する。
②	○ 新型コロナウイルス感染症を含めた新興・再興感染症の拡大などの緊急事態においては、都の方針の下、都や関係機関と連携しながら、感染症医療提供体制を強化するとともに、感染症患者を率先して受け入れるなど、求められる感染症医療を確実に提供する。	○ 新型コロナウイルス感染症を含めた新興・再興感染症の拡大時などの緊急事態においては、公的医療機関として、都の方針の下、都や関係機関と連携しながら、センター全体で感染症患者を積極的に受け入れるなど、必要な協力を行う。
③	○ 災害や感染症の発生等の非常時を想定し、法人内の危機管理体制を一層強化する。	○ 大規模災害や新興・再興感染症に備え、平時から区や地域の関係機関等と連携し、有事の際の対応を定めた計画の検討や情報共有を図るとともに、必要な知識や技術等に関する研修等を通じて、災害発生時・感染症拡大時の対応力を強化する。 ○ 大規模災害や新興・再興感染症のパンデミック発生時、患者を効率的に受け入れるため、救急施設の陰圧化を行うとともに、今後の研究基盤等のインフラ整備の検討の中で、一時的に患者を受け入れるスペースの確保についても併せて検討を進める。

2 評価指標等

評価の視点 及び 想定する取組	※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組	参考値 ※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点①】 災害による緊急事態において、都や地域の医療機関等と連携しながら、災害拠点病院としての体制を確保し、求められる災害医療を確実に提供しているか	(1) 災害拠点病院としての体制確保 ○災害時に必要な運営体制の確保に向けた取組状況 ◆定期的な訓練の実施 ◆適正な備蓄資器材の維持管理 ◆区や関係機関との定期的な情報交換		
【視点②】 新興・再興感染症の拡大などの緊急事態において、都や関係機関と連携しながら、感染症医療提供体制を強化するとともに、求められる感染症医療を確実に提供しているか	(2) 感染症医療提供体制の強化 ○新興・再興感染症の拡大時に必要な運営体制の確保に向けた取組状況 ◆都や関係機関と連携し、感染症患者の受入れ体制を確保 ◆病院と研究所とが連携した PCR 検査の実施	・感染防止対策連携カンファレンス実施回数 ・院内感染症対策研修会の開催実績（参加率）	
【視点③】 災害や感染症の発生等の非常時を想定し、法人内の危機管理体制を一層強化しているか	(3) 危機管理体制の一層の強化 ○災害や感染症対策の取組状況 ◆BCP の見直し・実効性の確保		

項目9 安全で質の高い医療の提供

1 中期目標及び中期計画

※赤字は令和4年度（第三期）からの変更点

視点	中 期 目 標	中 期 計 画
①	○ 医療安全管理体制を確保し、安全・安心で質の高い医療を提供する。	○ 医療安全に関する情報共有の推進やインシデント・アクシデント・レポートの効果的な活用・分析等により医療安全管理体制を確保し、実効性の高い予防策・再発防止策の構築に着手に取り組む。
②	○ 医師、医療技術職、看護師など、職員の専門性の向上を図る。	○ 医師、医療技術職、看護師等の職員の専門性の向上を図るため、タスクシフト／シェアを行いながら専門的かつ高度な技術を有する職員の育成に努めるとともに、DPCデータや高齢者の特性に配慮したクリニカルパスの分析・検証（バリエーションの分析・検証も含む。）を行うなど、医療の標準化・効率化を推進する。
③	○ 高齢者医療の専門病院として医療の質を表す指標を明確にし、その指標に基づき自らの医療を評価・検証し、継続的な改善に取り組む。	○ 医療の質の可視化により、継続的な改善を通じて医療の質の向上に取り組む。

2 評価指標等

評価の視点 及び 想定する取組	※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組	参考値 ※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点①】 医療安全管理体制を確保し、安全・安心で質の高い医療を提供しているか	(1) 医療事故防止の取組		
	○医療安全管理体制の強化に向けた取組状況		
	◆医療安全対策室及び医療安全管理委員会における報告事例の分析・改善策の検討		
	◆医療安全連携機関と連携した医療安全対策の評価及び情報交換		
	○職員の医療安全に対する意識の向上に向けた取組状況		
	◆研修や講演会の実施	・医療安全講演会の開催回数及び参加者数	
	○組織的な事故防止対策の取組状況		
【視点②】 医師、医療技術職、看護師など、職員の専門性の向上を図っているか。	◆インシデント・アクシデントレポートの活用	・医療従事者の針刺し事故発生件数	
	◆転倒・転落予防策を患者・家族と検討・実行	・転倒・転落事故発生率	
	(2) 医療の質の確保・向上		
	ODPC データやクリニカルパスの分析・検証状況	・クリニカルパス数 ・クリニカルパス適用率	
【視点③】 医療の質を表す指標を明確にし、その指標に基づき自らの医療を評価・検証し、継続的な改善に取り組んでいるか	(3) 職員の専門性の向上		
	○職員の専門性の向上に向けた取組状況		
	◆研修や勉強会の実施	・研修会・勉強会等の内容・開催回数	
	◆専門資格の取得 →主に項目18「独法の特性を生かした業務の改善・効率化」で評価		
	(4) 医療の質の指標		
	○医療の質の指標の検討・設定状況		
	○センターの医療の質の客観的な評価・検証、改善状況		

項目 10 患者中心の医療、患者サービスの向上

1 中期目標及び中期計画

※赤字は令和4年度（第三期）からの変更点

視点	中 期 目 標	中 期 計 画
①	○ インフォームド・コンセントの徹底や医療相談体制の充実など、患者中心の医療を推進する。	○ 患者やその家族が十分な理解と信頼の下に検査・治療を受けられるよう、 組織的な体制強化を含め 、インフォームド・コンセントの一層の徹底を図る。 ○ 患者とその家族に対する治療・療養支援を行うため 、相談支援体制の充実やセカンドオピニオンの充実に取り組む。
②	○ 患者サービスの充実に努め、誰もが利用しやすい環境を整備するとともに 、患者ニーズの把握等により、絶えずサービス内容を検証し、一層の改善に取り組む。	○ 患者に寄り添った医療・看護の提供を行うほか、 ICT機器を活用すること等 により患者へ分かりやすい説明を行うなど、充実した療養環境の確保に努めていく。 ○ ご意見箱や患者満足度調査、退院時アンケート調査等、様々な場面で患者やその家族の満足度やニーズの把握に努め、その結果の分析や対応策の検討を行い、 患者サービスの充実に努める 。

2 評価指標等

評価の視点 及び 想定する取組	※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組	参考値 ※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点①】 インフォームド・コンセントの徹底や医療相談体制の充実など、患者中心の医療を推進しているか	(1) 医療相談体制の充実		
	○相談支援体制の充実を始めた患者からの信頼確保に向けた取組 ◆インフォームド・コンセントの徹底	・カルテ開示請求対応件数	
	◆セカンドオピニオン外来の実施	・セカンドオピニオン利用患者数	
【視点②】 患者サービスの充実に努め、誰もが利用しやすい環境を整備するとともに、患者ニーズの把握等により、絶えずサービス内容を検証し、一層の改善に取り組んでいるか。	(2) サービスの一層の向上及び検証・改善		
	○充実した療養環境に向けた取組状況 ◆ICT 機器の活用		
	○患者の立場に立った接遇に向けた取組状況 ◆職員に対する接遇研修の実施	・接遇研修参加者数	
	○患者ニーズの分析・検証結果とサービスの改善状況 ◆ご意見箱や患者満足度調査等の活用	・ご意見箱実績 ・ご意見の内訳（意見・感謝） ・入院患者満足度、外来患者満足度	

項目 11 高齢者に特有な疾患と老年症候群を克服するための研究

1 中期目標及び中期計画

※赤字は令和4年度（第三期）からの変更点

視点	中 期 目 標	中 期 計 画
①・②	○ 血管病、高齢者がん、認知症、 高齢者糖尿病 など高齢者に特有な疾患やフレイルなど老年症候群の克服に向けた研究を推進する。	○ 血管病、高齢者がん、認知症、 高齢者糖尿病などの老年疾患の 予防、早期発見、早期治療のため、 病院部門とも連携しながら、発症・病態のメカニズムや老化機構の解明等を進め、新規診断・治療法等の開発など臨床への応用を進める。 ○ 高齢者特有の臨床症状であるサルコペニア、フレイル等老年症候群の克服に向け、その発症機序の解明と早期の診断方法、有効な予防・治療法の開発等 臨床への応用を進め 、高齢者の生活の質の向上を図る。 ○ P E Tを用いた 認知症 の新たな画像解析法や早期診断法の開発と 応用に取り組むほか 、国内外の治験に協力を行い、研究成果の社会的還元に努める。

2 評価指標等

評価の視点 及び	想定する取組	※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組	参考値	※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点①】 重点医療をはじめとした高齢者に特有な疾患に関する研究に継続的に取り組んでいるか	(1) 4つの重点医療に係る研究				※当該研究の目標・意義、研究の進捗状況・今後の見通し、研究成果・活用の見通し等については、対応可能な範囲で実績報告に記載していく
	○ 4つの重点医療に係る研究の進捗状況・成果				
	(2) 老化制御、老化関連疾患に係る研究				
	○ 老化制御、老化関連疾患に係る研究の進捗状況・成果				
【視点②】 サルコペニア、フレイル等老年症候群の克服に向けた研究を更に推進しているか	(3) サルコペニア、フレイル等老年症候群に係る研究				
	○ サルコペニア、フレイル等老年症候群に係る研究の進捗状況・成果				

項目 12 高齢者の地域での生活を支える研究

1 中期目標及び中期計画

※赤字は令和4年度（第三期）からの変更点

視点	中 期 目 標	中 期 計 画
①・②	○ 高齢者の社会参加の促進やフレイル予防に資する研究、認知症をはじめ疾患・障害を抱えた高齢者を支えるための研究など、高齢者の地域での生活を支える研究を推進する。	○ 地域コホート研究やレセプトの分析、IoTの活用等を通じ、対処行動、社会的包摂、医療・介護システムに関する研究開発を行う。 ○ 社会参加・社会貢献とそれを支えるフレイル・認知症の一次予防の推進、社会関係の構築及び社会環境の整備に資する基盤的・応用的研究を行う。 ○ フレイルや認知症の進行機序を踏まえた早期スクリーニング、重症化予防に資する研究や、日常生活に不具合があっても希望と尊厳をもって暮らせる社会の創出に向けた研究を行う。

2 評価指標等

評価の視点 及び	想定する取組	※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組	参考値	※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点①】 高齢者の社会参加の促進やフレイル予防に資する研究に取り組んでいるか 【視点②】 認知症をはじめ疾患・障害を抱える高齢者の地域における生活を支援するための研究に取り組んでいるか	（1）対処行動、社会的包摂、医療・介護システムに関する研究開発				※当該研究の目標・意義、研究の進捗状況・今後の見通し、研究成果・活用の見通し等については、対応可能な範囲で実績報告に記載していく
	○ 対処行動、社会的包摂、医療・介護システムに関する研究開発の進捗状況・成果				
	（2）高齢者の社会参加・社会貢献等に資する研究				
	○ 高齢者の社会参加・社会貢献等に資する研究の進捗状況・成果				
	（3）フレイルや認知症の早期スクリーニング、重症化予防に資する研究				
	○ フレイルや認知症の早期スクリーニング、重症化予防に資する研究の進捗状況・成果				

項目 13 老年学研究におけるリーダーシップの発揮 【拡充】

1 中期目標及び中期計画

※赤字は令和4年度（第三期）からの変更点

視点	中 期 目 標	中 期 計 画
①	○ 臨床研究及び病院と研究所の共同研究を一層推進し、研究成果の臨床応用、実用化へつなげる取組を推進する。	○ 当センターの全てのコホートを統合した「TOKYO健康長寿データベース」や高齢者ブレインバンクなどセンターの持つ財産を活用し、産官学の連携の下、老年学・老年医学の分野において、人生100年時代の健康長寿に資する次世代の医療・ヘルスケア技術を創出する。
②	○ 高齢者ブレインバンクの活用や国内外の研究機関とのネットワークの更なる強化を図るとともに、デジタルトランスフォーメーション（DX）を積極的に推進し、老年学研究や医学の発展に貢献する。	○ ウェアラブルデバイスを用いた高齢者の健康モニタリング及びその結果の分析を踏まえ、健康状態の把握や病気の予兆を察知できるアプリケーションの開発を進める。また、AIホスピタルの推進に向けて、データを用いた疫学研究やAI画像診断等、診療へ新たなテクノロジーを活用することで、高齢者の健康増進を図るための研究を病院と研究所が一体となって推進し、都における老年学研究拠点としての役割を果たしていく。 ○ 血液等の生体試料を保管・外部提供するためのインフラ整備が喫緊の課題となっており、そのために必要なメディカルゲノムセンター（仮称）の機能や整備の在り方について検討を進める。
③	○ 国内外の老年学関連学会において引き続き中心的な役割を果たすなど、老年学研究におけるリーダーシップを発揮する。	○ アジア／オセアニア国際老年学会議や日本老年学会を主幹するなど、国内外の学会における論文発表や研究成果の公表、学会運営への参加を一層進めていくほか、ICTやロボット技術等の研究・医工連携等についても積極的に関与し、老年学研究におけるリーダーシップを引き続き発揮していく。 ○ センター内において、引き続き、セミナーや研修など自己啓発の機会を提供するとともに、国内外からも研究員や留学生等の受入れを行い、老年学研究においてリーダーシップを発揮する人材の育成を図る。

2 評価指標等

評価の視点 及び	想定する取組 ※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組	参考値 ※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点①】 研究成果の臨床応用、実用化に向けて、トランスレーショナル・リサーチを推進しているか	(1) TRの推進に向けた取組		
	○TRの推進に向けた取組状況		
	◆健康長寿イノベーションセンター（HAIC）を中心とした包括的な支援		
	◆認知症未来社会創造センター（IRIDE）における取組 →主に項目16「認知症との共生・予防の取組」で評価		
	(2) TRの実績		
【視点②】 老年学研究や医学の発展に貢献しているか（ブレインバンクの活用や国内外の研究機関とのネットワーク強化、DXの推進等）	○研究成果の臨床応用・実用化に向けた取組 →TRによる個々の研究成果は主に項目11（自然科学）・項目12（社会科学）で見る	・研究助成課題件数 ・研究支援セミナー開催回数	
	◆臨床研究の実施		
	○外部機関との臨床研究の共同実施に向けた取組状況		
	◆TOBIRAを活用した産・学・公の連携	・TOBIRA 研究発表数	
	(3) ブレインバンク		
	○高齢者ブレインバンクの充実に向けた取組状況	・高齢者ブレインバンク新規登録例数	
	◆ブレインバンクを活用した研究の推進状況	・バイオリソース共同研究数	
	(4) 国内外の研究機関との連携		
	○国内外の研究機関との連携推進に係る取組状況		
	◆共同研究や受託研究等の実施	・共同研究・受託研究・受託事業・学術指導実施件数	
	◆研究員や留学生の受入れ	・国外研究員・連携大学院生等の受入数	

評価の視点 及び 想定する取組 ※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組		参考値 ※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点②】 老年学研究や医学の発展に貢献しているか（ブレインバンクの活用や国内外の研究機関とのネットワーク強化、DXの推進等）	(5) DXの積極的な推進		
	○AI等のDXを活用した研究・開発の取組状況		
	◆AIホスピタルの推進（AI画像診断システムの開発等）		
	◆ウェアラブルデバイスを用いた健康モニタリング・アプリ開発		
【視点③】 老年学研究におけるリーダーシップを発揮しているか（国内外の老年学関連学会において中心的な役割を果たす等）	(3) 国内外における研究成果の公表状況・研究の質		
	○研究成果の公表状況		
	◆論文発表や学会発表	・論文発表数 ・学会発表数 ・研究員一人あたりの学会発表数・論文発表数	
	○質の高い研究		
	◆競争的な外部資金への積極的な応募	・科研費新規採択率 ・科研費新規採択件数	

項目 14 研究成果の社会への還元

1 中期目標及び中期計画

※赤字は令和4年度（第三期）からの変更点

視点	中 期 目 標	中期計画
①	○ 研究費獲得競争が激化する中、研究支援組織が中心となり、倫理指針への対応のほか、知的財産の管理・活用業務の複雑化など諸課題に的確に対応する。	○ 外部研究資金の獲得支援、産官学連携の支援、高い研究倫理の維持、知的財産活用等を図るため、健康長寿イノベーションセンター（H A I C）が中心となり、研究者や臨床医師が行う研究に係る包括的な支援を実施する。
②	○ 法人外部の意見を活用するなど、研究成果の厳正な評価を行い、より効率的・効果的な研究活動を推進する。	○ 法人外部の意見を活用するなど、研究成果の厳正な評価を行い、より効率的・効果的な研究活動を推進する。
③	○ 研究成果として得た新技術や技術的知見を実用化するため、特許等の取得に努めるとともに、取得後はその意義・有用性を積極的に広報し、使用許諾を促進する。	○ 研究所の知的財産を適切に管理しながら技術開発等の検討も行い、特許出願や研究成果の実用化を促進する。
④	○ 公的研究機関として、多様な機会を通じて研究内容及び研究成果を公表するとともに、行政施策への提言を積極的に行うなど、研究成果のより一層の普及・還元を行う。	○ 都における高齢者研究の拠点として、研究成果の普及とその還元を図るため、YouTubeなどのSNSやホームページを活用するとともに、都民公開講座等への講師派遣やプレス発表等のパブリシティを通じて、積極的な情報発信に努める。 ○ 審議会への参加などにより、都をはじめとする自治体や国、公共団体への政策提言を積極的に行うほか、研究成果の社会還元に努める。

2 評価指標等

評価の視点 及び 想定する取組	※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組	参考値 ※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点①】 研究を取り巻く環境の変化を踏まえ、研究支援組織が中心となり、諸課題に的確に対応しているか	（1）研究基盤の強化 ○研究基盤の強化に向けた取組状況 ◆健康長寿イノベーションセンター（HAIC）による取組 ◆外部研究資金の獲得 ○効率的・効果的な研究活動の推進 ◆研究計画の進行管理 ◆外部評価の活用	 ・外部資金総獲得件数、外部資金総獲得金額、競争的外部資金獲得金額（総額・一人あたり）	
【視点②】 研究成果の厳正な評価を行い、より効率的・効果的な研究活動を推進しているか			
【視点③】 研究成果の実用化に向けて取り組んでいるか	（2）研究成果の普及・還元 ○知財管理や実用化に向けた取組状況 ◆知財管理の強化に向けた体制の整備 ○積極的な情報発信に向けた取組状況 ◆都民向け講座の実施 ◆研究成果に係る広報物の作成・発信 ◆インターネットにおける情報発信力の強化 ○政策への寄与の状況 ◆行政からの委託研究、行政への政策提言 ◆ガイドライン等への寄与	 ・特許新規申請数 ・都民向け講座等開催実績（回数、出席者数） ・研究成果等を広く周知することを目的としたプレス発表件数 ・HP アクセス件数（研究所ページ） ・YouTube チャンネル登録者数 ・Twitter フォロワー数 ・取材依頼件数 ・国際学会での研究成果発表数	
【視点④】 研究成果の公表や行政施策への提言により、研究成果のより一層の普及・還元に向けて取り組んでいるか		・審議会等参加数	

項目 15 介護予防・フレイル予防の取組 【拡充】

1 中期目標及び中期計画

※赤字は令和4年度（第三期）からの変更点

視点	中 期 目 標	中 期 計 画
①	○ 住民主体の介護予防・フレイル予防活動等を推進する区市町村に専門的・技術的支援を提供し、通いの場をはじめとした地域における介護予防活動の拡大・機能強化を図ることで、都の介護予防・フレイル予防施策に貢献する。	○ 東京都介護予防・フレイル予防推進支援センターとして、区市町村・地域包括支援センター職員等に対する研修や、地域で介護予防に取り組む職員等に対する相談支援の実施などにより、介護予防に取り組む区市町村を支援する。
③	○ 病院や研究所で培った知見やノウハウを生かした介護予防・フレイル予防の取組を強化し、地域の介護予防・フレイル予防を推進する。	○ 日本医師会、東京都医師会、東京都栄養士会、日本看護協会、日本老年医学会、日本サルコペニア・フレイル学会等の関係機関と連携しながら、フレイル予防センターにおける地域連携ネットワークが中心となり、ウェアラブルデバイスを用いたフレイルの原因となる転倒骨折・認知症・低栄養・運動不足・脳血管疾患等の早期発見、フレイルの評価・診断に基づいた高齢者医療の確立、フレイルサポート専門職（医師・看護師・栄養士など）の育成等により、都における新たな地域包括ケア医療を推進するとともに、地域横断的な展開を図る。

2 評価指標等

評価の視点	及び 想定する取組	※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組	参考値	※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点①】 地域における介護予防活動の拡大・機能強化を図ることで、都の介護予防・フレイル予防施策に貢献しているか	（１）地域における介護予防・フレイル予防活動の拡大・機能強化及びとの施策への貢献				
	○ 東京都介護予防・フレイル予防推進支援センターとしての取組状況				
	◆ 区市町村・地域包括支援センター職員に対する研修の実施			・ 研修会開催実績	
	◆ 地域で介護予防に取り組む職員に対する相談支援			・ 相談支援件数	
	◆ 介護予防事業等への専門職の派遣			・ 専門職派遣件数	
【視点②】 医療・研究の一体的取組により培った知見、ノウハウを生かして地域の介護予防・フレイル予防を推進しているか。	○ フレイルサポート専門職の育成				
	◆ フレイルサポート医・看護師・栄養士の育成			・ フレイルサポート医等研修会参加者数	
	（２）介護予防・フレイル予防に係る研究成果の活用				
	○ 介護予防・フレイル予防に係る研究成果の活用状況				
	◆ サルコペニア、フレイル等に対する多職種協働の医療の提供				
	◆ スマートウォッチ事業				
					※当該研究の目標・意義、研究の進捗状況・今後の見通し、研究成果・活用の見通し等については、対応可能な範囲で実績報告に記載していく

項目 16 認知症との共生・予防の取組 【拡充】

1 中期目標及び中期計画

※赤字は令和4年度（第三期）からの変更点

視点	中 期 目 標	中 期 計 画
①	○ 都内の認知症ケアに携わる医療専門職等の認知症対応力の向上を図るとともに、認知症の人と家族を支援する体制を構築することで、都の認知症施策に貢献する。	○ 認知症支援推進センターとして、当事者等の意見を尊重しながら、独居認知症や若年性認知症などの課題への対応も含め、都内の認知症サポート医、認知症疾患医療センター相談員、認知症支援コーディネーター等への研修や認知症に対応する看護師の能力向上を目的とした研修、島しょ地域への訪問研修等を実施し、地域の認知症対応力の向上を図る。また、都内の地域拠点型認知症疾患医療センターが実施する各研修について評価・検証を行うワーキンググループ事務局として活動を推進する。
②	○ 認知症の人と家族の地域での生活を支えるため、病院や研究所で培った知見やノウハウを生かし、認知症との共生・予防を推進する。	○ 認知症未来社会創造センター（IRIDE）の取組で構築される大規模データベースやAI診断システム等の成果を活用しながら、認知症の共生・予防を推進する。

2 評価指標等

評価の視点 及び 想定する取組	※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組	参考値 ※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点①】 都内の認知症ケアに携わる医療専門職等の認知症対応力の向上を図るとともに、認知症の人と家族を支援する体制を構築することで、都の認知症施策に貢献しているか	（１）認知症対応力向上の取組		
	○認知症支援推進センターとしての取組状況		
	◆認知症サポート医や東京都認知症疾患医療センター相談員に対する研修の実施	研修開催実績（回数、受講者数）	
【視点②】 医療・研究の一体的取組により培った知見やノウハウを活かして認知症との共生・予防を推進しているか	○東京都認知症疾患医療センターとしての取組状況 →主に項目3「認知症医療」で見る		
	（２）認知症との共生・予防に係る研究成果の活用		
	○認知症未来社会創造センター（IRIDE）としての取組状況		※当該研究の目標・意義、研究の進捗状況・今後の見通し、研究成果・活用の見通し等については、対応可能な範囲で実績報告に記載していく
	◆TOKYO 健康長寿 DB の構築		
	◆メディカルゲノムセンター		
	◆AI 診断		
	◆地域コホート研究		
	○認知症との共生をめざした研究の取組状況		
	◆認知症抗体医薬対応支援事業（R6～s		

項目 17 高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成 【拡充】

1 中期目標及び中期計画

※赤字は令和4年度（第三期）からの変更点

視点	中 期 目 標	中 期 計 画
①	○ 高齢者の医療・介護を支える専門人材の育成を引き続き推進する。	○ 医師、看護師、医療専門職等の講師派遣や研修会、認定・専門看護師や医療専門職の資格取得支援等を通じて、高齢者医療への理解促進と次世代の医療従事者及び研究者の人材育成に貢献する。 ○ 医師の負担軽減を図るため、適切な医師数の確保、タスクシフト／シェアの推進、DC（ドクターズクラーク）の計画的な採用・育成を実施する。
②	○ 法人の特長を生かした実習の充実により、臨床研修医や看護実習生、医療専門の実習生を積極的に受け入れ、高齢者医療を担う医療人材を育成する。	○ 他の医療機関や研修関連施設との連携も図りながら、臨床研修医や看護実習生、医療専門の実習生を積極的に受け入れ、人材の確保及び育成を図る。
③	○ 特別研究員、連携大学院生及び研究生を積極的に受け入れ、老年学・老年医学を担う研究者を育成する。	○ 特別研究員、連携大学院生、研究生を積極的に受け入れ、老年学・老年医学を担う研究者の育成に取り組む。
④	○ 地域の保健医療・福祉関係者のフレイルに関する対応力の向上を図るため、フレイルの視点をより一層重視した早期からの「予防し、治し支える医療」を担う人材を育成する。	○ フレイルサポート医、フレイルサポート看護師、フレイルサポート栄養士などの育成を推進し、関係機関と連携しながら地域横断的な展開を図る。

2 評価指標等

評価の視点 及び	想定する取組	※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組	参考値	※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点①】 高齢者の医療・介護を支える地域の専門人材の育成を推進しているか	(1) 地域及び都における人材育成の取組				
	○ 地域及び都における人材育成の取組状況				
	◆ 地域及び都内の医療・介護関係者に対する研修会等の実施や講師派遣		・ 研修の開催実績（回数、受講者数） ・ 講演会等への講師派遣回数		
	◆ 東京都認知症支援推進センターや東京都介護予防・フレイル予防推進支援センターにおける研修等の実施		・ 東京都認知症支援推進センターや東京都介護予防・フレイル予防推進支援センターにおける研修開催実績		
【視点②】 臨床研修医や看護実習生、医療専門の実習生を積極的に受け入れ、高齢者医療を担う医療人材を育成しているか	(2) 次世代の医療介護を支える専門人材の育成に向けた取組				
	○ 次世代の医療・介護人材の育成に向けた取組状況				
	◆ 研修会や講師派遣、人材交流等の実施				
	◆ 臨床研修医や医療・看護実習生等の受入れ		・ 看護実習生の受入実績（人数）		
【視点③】 特別研究員、連携大学院生及び研究生を積極的に受け入れ、老年学・老年医学を担う研究者を育成しているか	(3) 次世代の老年学・老年医学を担う研究者の育成に向けた取組				
	○ 次世代の老年学・老年医学を担う研究者育成に向けた取組状況				
	◆ 研修会等の実施や講師派遣				
	◆ 特別研究員、連携大学院生、若手研究員等の受入れ		・ 特別研究員、連携大学院生、若手研究員等の受入実績（人数）		
【視点④】 フレイルの視点をより一層重視した早期からの「予防し、治し支える医療」を担う人材を育成しているか	(4) 地域の保健医療・福祉関係者のフレイルに関する対応力の向上				
	○ 「予防し、治し支える医療」を担う人材育成の取組状況				
	◆ フレイルサポート人材（医師・看護師・栄養士）育成に係る研修の実施		・ フレイルサポート医等研修会受講者数		

項目 18 地方独立行政法人の特性を生かした業務の改善・効率化 【拡充】

1 中期目標及び中期計画

※赤字は令和4年度（第三期）からの変更点

視点	中 期 目 標	中 期 計 画
①	○ 地方独立行政法人として自律性を発揮し、効率的・効果的に業務を推進する。	○ 機動的な経営判断や予算執行を可能にする組織体制を継続し、都民ニーズや社会情勢の変化に対応した効率的・効果的な業務の推進を図る。 ○ DPCデータや財務情報、電子カルテ等の医療に係るデータに基づく病院経営を引き続き推進する。
②	○ ライフ・ワーク・バランスを推進するとともに、優れた人材の確保・定着や職員の専門性向上につながる取組を実施する。	○ 都における高齢者医療・研究の拠点としての将来像を見据え、センター固有職員の採用・育成の長期的な計画を策定するとともに、優秀な人材の迅速な採用を行い、質の高い柔軟な組織体制の確保を図る。また、職員の定量・定性的業績評価を適切に推進する。 ○ 多様な勤務形態の導入についての検討を行うなど、ライフ・ワーク・バランスに配慮するとともに、優秀な人材を表彰することなどにより、職員のモチベーション向上に努める。 ○ 国の働き方改革の方針を踏まえ、医師をはじめとした職員の働き方改革に向けて、職員の確保やDXの積極的な推進により業務の効率化を図ることで、ライフ・ワーク・バランスに配慮し、職員のQOL向上を実現する。 ○ 他病院や他施設との人事交流、外部の教育機関等における専門的な研修の実施など、職員の能力・専門性向上に向けた多面的な取組を行う。
③	○ 法人の認知度向上、事業への理解促進に向け、都民、関係機関に対する情報発信力を強化する。	○ オンライン診療やオンライン予約、ペーパーレスなどの取組を推進し、患者サービスの向上を図る。また、それらを含めた各種取組や成果についてホームページやSNS等で積極的に発信することで、都におけるセンターの認知度向上及び取組、成果の普及・還元を図る。 ○ 国の働き方改革の方針を踏まえ、医師をはじめとした職員の働き方改革に向けて、職員の確保やDXの積極的な推進により業務の効率化を図ることで、ライフ・ワーク・バランスに配慮し、職員のQOL向上を実現する。【再掲】
④	○ DXの推進により、法人の業務運営、患者サービス等を改善し、QOS（クオリティ・オブ・サービス）の向上を図る。	

2 評価指標等

評価の視点 及び 想定する取組	※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組	参考値 ※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点①】 地方独立行政法人として自律性を発揮し、効果的・効率的な業務運営を行っているか	(1) 効率的・効果的な業務の推進		
	○ 効率的・効果的な業務の推進に向けた取組状況		
	◆ 経営戦略会議等における機動的な経営判断や弾力的な予算執行		
	◆ データに基づく経営の推進		
	○ 職員による自発的な業務の改善・効率化の進捗状況		
【視点②】 ライフ・ワーク・バランスの推進や、優れた人材の確保・定着、職員の専門性向上に取り組んでいるか	◆ 職員提案制度の活用	・ 職員提案制度提案数、取組数	
	(2) ライフ・ワーク・バランスの推進		
	○ ライフ・ワーク・バランスの推進に向けた取組状況		
	◆ 業務のシステム化・電子化等による職員の負担軽減		
	◆ 年次有給休暇の取得促進・多様な勤務体系の導入	・ 年次有給休暇の平均取得日数	
	○ 働き方改革への対応状況		
	(3) 法人内の人材確保・育成		
	○ 法人内の人材確保・育成に向けた取組状況		
	◆ センター固有職員の採用・育成計画の策定	・ 採用実績（研修医等受入数、看護師採用数） ・ 研修参加実績	
	◆ 専門資格の取得支援や学術レベルの向上に向けた支援の実施	・ 専門資格の取得状況	
	◆ 他機関との人事交流や派遣研修の実施		
	◆ 定量・定性的業績評価を推進		

評価の視点 及び 想定する取組 ※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組		参考値 ※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点③】 都民、関係機関をはじめ、都におけるセンターのプレゼンス向上に取り組んでいるか	(4) 情報発信		
	○法人のプレゼンス向上に向けた取組状況		
	◆病院や研究における各種取組・成果の全般的な発信	・都民向け講座等の開催実績（回数、参加者数）	
【視点④】 DXの推進により、法人の業務運営、患者サービス等を改善し、QOSの向上を図っているか	◆情報発信ツールの活用	・HP アクセス件数、YouTube チャンネル登録者数、Twitter フォロワー数	
	(5) DX の推進		
	ODX の推進による QOS の向上に向けた取組状況		
	◆AI 問診の導入、業務のシステム化・電子化	・ AI 問診実施件数	

項目 19 適切な法人運営を行うための体制の強化

1 中期目標及び中期計画

※赤字は令和4年度（第三期）からの変更点

視点	中 期 目 標	中 期 計 画
①	○ 法人内の各組織の権限・意思決定プロセスの明確化、業務監査の実施による内部監査体制の強化など、内部統制を着実に実施する。	○ センター運営をより適切に行うために、組織体制の不断の見直しや業務監査の実施による内部監査体制の強化などを進め、一層の経営機能の向上とセンター運営の透明性・健全性の確保を図る。
②	○ 法人運営の透明性・健全性を確保するため、外部の専門家等の意見を活用するとともに、業務実績や経営情報の公表など、積極的な情報公開に努める。	○ 運営協議会や研究所外部評価委員会をはじめ、センター外部からの意見・評価等を受ける場を確保し、その意見等を業務改善などに積極的に生かしていく。 ○ 財務諸表等の経営情報や臨床指標・診療実績等の医療の質に係る各種指標をホームページに掲載し、センター運営や医療に係る情報公開と透明性の確保を図る。
③	○ 法令及び行動規範の遵守、倫理の徹底を図る。	○ 医療法（昭和23年法律第205号）をはじめとする関係法令及び高齢者医療・研究に携わる者としての行動規範の遵守と倫理の徹底を図る。

2 評価指標等

評価の視点 及び	想定する取組 ※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組	参考値 ※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点①】 内部統制を着実に実施しているか	(1) 内部統制の確保		
	○内部統制の確保に向けた取組状況		
	◆内部監査体制の強化		
	◆監事、会計監査人と連携した法人運営の適正性の確保		
	◆業務方法書に基づく内部統制体制の整備		
【視点②】 法人運営の透明性・健全性を確保しているか	○外部委員からの評価の活用状況		
	◆運営協議会や外部評価委員会の開催及び得られた意見・評価の活用		
	(2) 法人運営の透明性・健全性		
【視点③】 法令遵守・倫理の徹底に取り組んでいるか	○情報公開に係る取組状況		
	◆外部有識者による評価の公表		
	◆財務諸表や医療の質に係る各種指標の公開		
	(3) 法令遵守・倫理の徹底		
	○法令、行動規範、倫理の徹底に向けた取組状況（法人全体）		
	◆研修等の実施によるコンプライアンスの強化	・ 研修開催実績（参加率、回数、参加者数）	
	◆倫理委員会の適正な運用等による倫理の徹底		
	◆障害者差別解消法に基づく適切な対応		
	○研究倫理の徹底や不正防止に向けた取組状況		
	◆倫理委員会の適正な運用等による倫理の徹底	・ 関連委員会等の実施状況	
	◆研究不正防止対策の推進		

項目 20 収入の確保・コスト管理体制の強化

1 中期目標及び中期計画

※赤字は令和4年度（第三期）からの変更点

視点	中 期 目 標	中 期 計 画
①	○ 地域の医療機関との連携等 による患者の積極的な受入れや、診療報酬改定への的確な対応に取り組むとともに、適切な未収金対策などを実施し、医業収入を確保する。	○ 地域連携推進組織の整備 による地域連携の強化、救急患者の積極的な受入れ、逆紹介の推進等による外来の効率化などを進め、積極的な医業収入の確保に努める。 ○ 診療報酬制度の改定など医療を取り巻く 社会情勢 の変化に 的確 に対応し、施設基準の取得や診療報酬の請求漏れ防止策、未収金対策を図る。 ○ 予定入院患者に対する入院前検査などを進めることで病棟負担の軽減を図り、これまで以上に手厚い医療・看護サービスの提供と在院日数の短縮を図る。
②	○ 外部研究資金を積極的に獲得するとともに、研究成果の実用化に向けた取組の促進や、知的財産の積極的な活用を図る。	○ 健康長寿イノベーションセンター（HAI C） によるサポートの下、医療と研究の一体化というメリットを生かし、受託・共同研究、競争的研究資金など、外部研究資金の積極的な獲得に努めるとともに、成果の実用化や臨床応用の推進、知的財産の活用を図る。
③	○ 電子カルテデータやDPCデータなど、各種データ等を用いた経営状況の分析を行う。	○ 電子カルテやDPCデータなどの各種診療情報、診療材料等の材料費をはじめとする各種コスト、財務情報の多角的な分析を強化し、収入確保の強化と同時に 適切な支出を徹底する 。 ○ 医療機器等を計画的に整備し、中央管理の推進を図るとともに、機器の価格交渉 や導入方法についても検討し、調達コストの抑制を図る。
④	○ 病院、研究所における部門ごとに、費用対効果の改善に向けた目標を設定し、進捗管理を行う。	○ 病院、研究所の双方において、経営意識やコスト管理意識の醸成を図るべく、各診療科や研究テーマ等の単位で目標設定を行い、ヒアリング等を通じて進捗管理を行う。 ○ 病院・研究の各部門と連携し、コストの削減が可能な事項について着実に取り組むなど、経費の不断の見直しを行い、経営改善に努める 。
⑤	○ 病院における部門ごとに、原価計算を行い、収支管理に活用する。	○ 診療実績など各部門の活動状況や経営改善の状況の適切な分析に向け、原価計算を継続して実施し、経年比較を行うことにより、病院全体でコスト意識の向上を図る。

2 評価指標等

評価の視点 及び	想定する取組	※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組	参考値	※経年比較、下線部は目標値	備考
	(1) 当該年度のパフォーマンス（収支の状況）		・経常収支比率 ・医業収支比率 ・自己収支比率 ・修正医業収支比率 ・1人あたりの1日の単価（入院・外来）		
【視点①】 医業収入の確保に取り組んでいるか	(2) 収入の確保（病院）				
	○積極的な患者の受入れ等による収入確保		・延入院患者数、延外来患者数 ・1日あたり患者数（入院・外来） ・新入院患者数 ・初診料算定患者数 ・紹介患者数 ・病床利用率（病院全体） ・平均在院日数（病院全体）		
	◆救急患者の積極的な受入れ				
	◆地域連携の強化				
	◆入退院支援の強化				
	○診療報酬改定等に対応した収入確保の取組状況				
	◆新たな施設基準の獲得				
	◆請求漏れ防止				
	◆査定率減		・査定率		
	○その他、病院における収入確保の取組状況				
	◆未収金対策		・未収金率		

評価の視点 及び 想定する取組 ※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組		参考値 ※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点②】 研究について収入の確保に取り組んでいるか	(3) 収入の確保（研究所）		
	○外部研究資金獲得に向けた取組状況		
	◆競争的研究費の獲得	・外部資金総獲得件数、外部資金総獲得金額、競争的 <u>外部資金獲得金額</u> （総額・一人あたり）	
	◆受託・共同研究の実施	・ <u>科研費新規採択率</u>	
	○知財管理等の取組状況	・ <u>共同・受託研究等実施件数</u>	
	◆研究成果の実用化や臨床応用の推進		
【視点③】 各種データを用いた経営分析を行っているか	◆知的財産の活用		
	(4) データ分析に基づくコスト削減の取組状況		
	○データ分析に基づくコスト削減の取組状況		
	◆医療情報戦略課等における経営分析の実施		
	◆材料費や医薬品費の抑制	・ <u>材料費対医業収益比率、後発医薬品使用割合</u>	
	◆更新計画等に基づく医療機器等の効率的・効果的な整備		
【視点④】 病院・研究所における部門ごとに費用対効果の改善に向けた目標を設定し、進捗管理を行っているか 【視点⑤】 病院における部門ごとに原価計算に基づく収支管理を行っているか	◆調達コスト抑制に向けた取組	・ <u>競争入札実施件数</u>	
	(2) 進捗管理・収支管理の実施状況		
	○職員の経営意識やコスト管理意識の醸成に向けた取組状況		
	○進捗管理の取組状況		
	◆部門ごとの目標設定とヒアリング等による進捗管理		
	○病院部門における原価計算に基づく収支管理の実施状況		

項目 21 その他業務運営に関する重要事項（法人運営におけるリスク管理の強化）

1 中期目標及び中期計画

※赤字は令和4年度（第三期）からの変更点

視点	中 期 目 標	中 期 計 画
①	○ 東京都個人情報の保護に関する条例（平成2年東京都条例第113号）等の法令に基づき、個人情報保護とサイバーセキュリティ対策の徹底を図る。 ○ 業務運営上必要な情報を適切に管理・共有し、組織的なリスクマネジメントを徹底する。	○ センターの個人情報保護方針、情報セキュリティポリシー及びその他の関係法令等を遵守し、個人情報保護及び情報セキュリティ確保の徹底を図る。また、研修等を通じた個人情報保護の重要性の周知やシステムに係る強固なセキュリティ対策の実施により、ハード・ソフトの両面から、組織全体での個人情報保護及びサイバーセキュリティ対策の強化に努めるとともに、インシデント発生時への対応力向上に組織全体で取り組む。
③	○ 健全な業務活動を確保するため、職員の健康管理及び安全な職場環境の確保に取り組む。	○ 職員が安心して医療・研究活動に従事することができるよう、健康管理及び安全に業務を遂行できる良好な職場環境の確保に取り組む。

2 評価指標等

評価の視点 及び 想定する取組	※「◆」は中期計画・令和5年度計画上の取組	参考値 ※経年比較、下線部は目標値	備考
【視点①】 情報の適切な管理・サイバーセキュリティ対策による組織的なリスクマネジメントを徹底しているか	（1）情報管理 ○情報管理の徹底に係る取組状況 ◆研修等の実施による職員の意識向上や管理方法の徹底 ◆システムに係るセキュリティ対策の実施	・研修参加率	
【視点②】 職員の健康管理、安全な職場環境の確保に向けて取り組んでいるか	（2）職員の健康管理、職場環境の確保 ○職員の健康確保・良好な職場環境の確保に向けた取組状況 ◆ハラスメント防止体制の強化 ◆健康診断の受診促進やメンタルヘルス研修等の実施		

【項目1 血管病医療】

○心臓血管疾患

弁膜症
経カテーテル的大動脈弁治療
心不全
循環補助用心内留置型ポンプカテーテル
血管疾患
胸部大動脈瘤手術
うちステントグラフト内挿術
腹部大動脈瘤手術
うちステントグラフト内挿術
下肢静脈瘤血管内焼灼術

○脳血管疾患

コイル塞栓術
ステント留置術

【項目2 高齢者がん医療】

○低侵襲な鑑別診断

NBI 内視鏡検査	消化器がん
コンベックス超音波内視鏡下穿刺術	脾がん、悪性リンパ腫等
超音波気管支鏡ガイド下針生検	肺がん
ガイドシース併用気管支腔内超音波断層法	肺がん
内視鏡的逆行性膵胆管造影検査	閉塞性黄疸等
センチネルリンパ節生検	乳がん
前立腺針生検	前立腺がん

○低侵襲ながん治療

腹腔鏡下手術	胃がん、大腸がん
胸腔鏡下手術	肺がん、食道がん
内視鏡下粘膜下層剥離術（ESD）	消化器がん
内視鏡的粘膜切除術（EMR）	消化器がん